

# 日本全土と天草全土の漁獲量の変化

## 【テーマ設定】

授業の中で日本の水産業は衰退してきていると聞いたため、天草の水産業も衰退しているのか気になったから。

## 【仮説】

日本の漁業が衰退している中で、天草の漁業も同様に衰退しているのではないか。

## 【検証方法】

天草漁協組合の方々が天草の漁港での水揚げ量などを集計した平成23年と令和2年のデータを比較してまとめる。インターネットで天草の漁業について調べる。

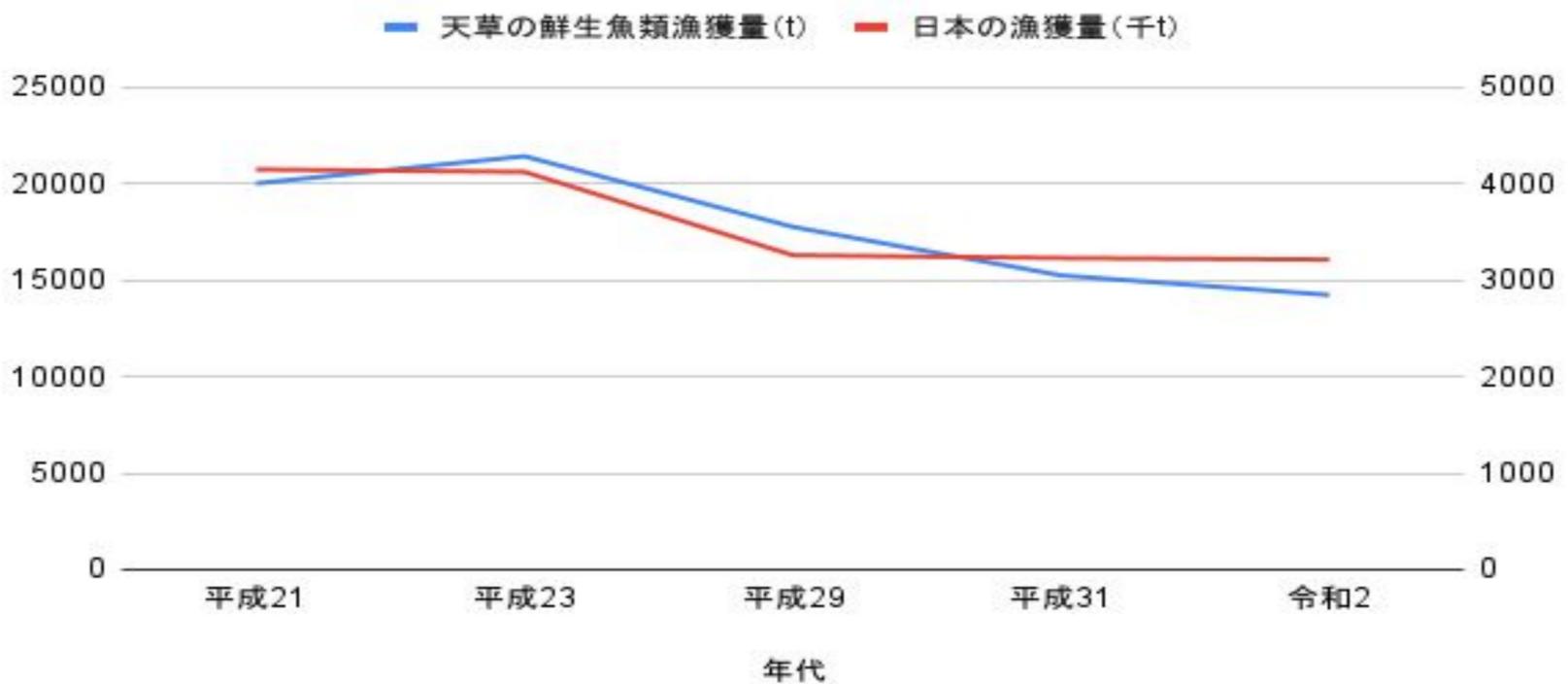
## 【結果】

天草の鮮魚類の漁獲量が平成23年は約2万1000トンで令和2年は1万4000トンと、約3割減になっておりかなり下がっていることがわかる。

日本全国の取り扱い数量は平成23年で3824万トンで令和2年が3213万トンでやはり全国的にも下がっていた。

日本の減少率が約2割減なのに比べ天草では約3割減になっていてより深刻

天草鮮生漁獲量(t) と日本の漁獲量(千t)



## 【今後の展望】

富岡の漁獲量が思っていたより大幅に減少していて驚いた。

また、このような事態の背景には漁師の人数減少や漁獲量の規制などがあるのかと思った。また調べる機会があればこのようなところに注目しながら勧めていきたい。

## 【結論】

・天草も全国も漁獲量が下がっている。

## 【参考文献・Webサイト等】

平成21年～令和2年天草漁獲量(天草漁協)  
日本水産白書(水産庁)